

平成23年度教育委員会事務点検評価(平成22年度実施事務事業)評価表

1 事務事業の基本事項

		整理番号	19
事務事業の名称	非常勤講師配置事業	担当部課	教育委員会 学校教育部 教育指導課
		電話番号	04 - 2953 - 1111 内線 5652
実施期間	～		
総合振興計画における位置づけ	5章 人を育み文化を創造するまちをめざして	実施計画(H22～24)事業名	非常勤講師配置事業
	2節 次世代教育の充実		
	1項 教育内容の充実	個別計画等の名称	
	1目 特色ある学校づくりの推進		
実施根拠			
事業区分	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務 <input type="radio"/> 法定受託事務+自治事務		
事業開始の背景等	社会の様々な変化により、学校教育も多くの課題がある。創造性に富み、心豊かな生きる力を持った児童生徒の育成のためには、より一層の教育内容の充実が必要である。		

2 事務事業の目的・内容

目的	非常勤講師の配置により教育内容を充実し、きめ細やかな教育を推進することにより、創造性に富み、心豊かな生きる力を備えた児童生徒の育成を図る。
対象	全小中学校
活動内容	次代を担う子ども達を、創造性に富み、たくましく心豊かに育てるため、また、自ら学び自ら考える能力などの向上を通じて、社会を生きる力を育むため、わくわく非常勤講師、アシスタントティーチャー等の活用により、教育内容の充実を図っている。各小中学校にわくわく非常勤講師を一名ずつ、各中学校にアシスタントティーチャーを一名ずつ配置した。これにより、教育内容のさらなる充実が図れた。
(下段)前年度の方向性に対する改善活動	(前年度方向性評価) 継続
環境配慮	環境教育を推進するとともに、身近な環境保全を実践する。
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・負担 <input type="checkbox"/> その他()

3 事務事業の実施状況と成果

区分	指標名	区分	単位	20年度	21年度	22年度	23年度	目標値の根拠・考え方
(実施動向指標)	アシスタントティーチャー等の配置人数	目標値	人	34	34	31	30	わくわく非常勤講師を全小中学校に、アシスタントティーチャーを全中学校に配置する
		実績値		31	31	31		
	達成率		91.2%	91.2%	100.0%			
	達成率							
(成果指標)	アシスタントティーチャー等の配置延べ日数	目標値	日	6,648	5,704	5,704	5,493	一人当たり、184日を設定
		実績値		6,378	5,544	5,555		
	達成率		95.9%	97.2%	97.4%			
	達成率							

4 事業費

		区分	単位	20年度	21年度	22年度	23年度
経費	直接費	予算額	千円	30,690	28,520	28,520	29,909
		決算額	千円	29,850	27,720	27,775	
		財源内訳	国県支出金	千円			
	その他特定財源		千円				
	一般財源		千円	29,850	27,720	27,775	
	人件費	従事職員数	人	0.25	0.20	0.20	
人件費(従事職員数×平均給与)		千円	2,294	1,839	1,798		
		事業費計(直接費決算額+人件費)	千円	32,144	29,559	29,573	
効率性指標	指標名	アシスタントティーチャー等配置延べ日数	日	6,378	5,544	5,555	※1単位当たりの経費
	単位コスト	一日当たりの経費	円	5,040	5,332	5,324	

5 事務事業の評価

◆第一次評価(担当課による評価)

項目	評価の視点	評価	評価理由
個別評価	必要性	4 前年度	・目的の妥当性 ・市民ニーズへの対応 ・市が関与する必要性 ・市が負担する必要性など 身についている生活習慣や生活規律が個々に大きく異なる新入生が、大きな集団で生活する時、担任一人では個に対応しきれなくなる状況が、社会の問題ともなっている。これに対応するためには、個に応じたきめ細かい指導体制が必要である。また、学年が進むにつれ個々の能力の差が大きくなっている。この能力差に対応して、一人ひとりに確実な学力を身につけさせるために必要である。
	有効性	4 前年度	・活動目標の達成度 ・成果の向上 ・上位施策への貢献度 ・市民サービスの向上など わくわく非常勤講師、アシスタントティーチャー等の派遣による授業の指導は、教育内容の充実を図る上で有効であった。各学校で、基礎的基本的事項の定着、授業規律の徹底など、成果を上げた。その他、学習活動を効率的に行うことに大変効果があった。
	効率性	4 前年度	・手段の最適性 ・コスト効率の向上 ・受益者負担の適正化 ・執行体制の効率化など 年間で決められた日数での日給制の勤務であり、学校が必要とする日に勤務するため、コスト的に効率性が高い。通勤手当が支給されないため、遠方からの勤務が難しい。優秀な人材確保という観点から改善が必要である。
<5段階評価> 5:極めて高い 4:高い 3:普通 2:低い 1:かなり低い			
今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 内容の見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了 平成23年度は、人員の削減はないが、わくわく非常勤講師、アシスタントティーチャー等の活用をさらに工夫し、教育内容の充実を図っていく。		

6 その他(学識経験者の意見等)

ATとして固定された人を配置する発想だけでなく、教員志望の大学生などによるボランティアとしてのATの活用の実態が知りたい。取り組みがないはずはないと思うが、積極的に進めるべき課題だと思う。なお、小中一貫(連携)による中学校生徒の小学校児童に対する夏季休業等における宿題(学習)支援などという取り組みも知っておかれて良い取り組みだろう。